

寺報

龍正寺

日なた 166号

平等
日延



<令和 4年 3月>

宝龍会
護持会

令和4年節分・星祭り開催しました

- コロナ感染が再拡大していましたが、感染対策を行い、星の厄払い
・ 祈願を行いました。



星祭りは、この本命星（またはその年の星とされる当年星）に祈願し、除災・得幸を祈る行事です。

日蓮宗では、大聖人が龍口法難の際、「月のような光物（月天子）によって難を免れ、翌日に「明星のような大星が下って、梅の木にかかった」ということから、法華経の行者に、月や星の守護が得られると信仰しています。さらに法華経の「諸天は昼夜に衛護す（取意）」等の経文から、星（九星・曜）に願いをかければ、必ず守護があるとされています。

(日蓮宗新聞記事より)

任職一言 御遺文より

段々と寒さも柔らぎ、春めいて来ましたが、新型コロナウイルスは終息する事なく、拡大します、皆様方気を付けて下さい、自身を守るのは自分自身しかありません、健康を他待ちましょう。

原祖日蓮大聖人御遺文

「富木足御前ニ云ク」

『也のはしる事は弓のちから、くものゆくことはりうのちから、をとこのしわざは女のちからなり。けぶりを見れば火をみる。あめを見ればりうをみる。をとこを見れば女をみる。今とをどのに、けせんつかまれば、足ごせむをみたてまつるとをほう。』

(解説) 箭^やの走ることは弓の力であり、雲の行くことは龍の力である、それと同じように、男の働きは女の力である、今富木殿がこの身延山へ詣られたのは、よき女房である足御前の力に外ならずぬ。

(1. 夫の参詣は妻の背後の力なることを説いて、その内助の功をほめる)

煙を見れば、それを揚げた火を想見する、雨を見れば、それを降らした龍を想見する、男を見れば、それに連れ添う妻が想される、今富木殿に面会すれば、夫をここへ参らせられた足御前の面影が

心に浮かぶのである、

(2.夫に面会して背後の妻を想見する自身の心情を語って内助の勞をいた
める)、『やのはしることは』云々の譬喩、『けぼりをみれば』云々の譬喩を
打ち重ねての名句、我等はその心情のやさしさと表現のたくみさとに三
歎する外はない。

この御遺文はNHK Eテレ月曜日 22時25分 100分の名著で日
蓮の手紙で照会されました。内助の功、男女の差別なき法
華のお教えを説かれていきます、

現在の世、我々の生活においても必要な事と思ひます。
皆様のお安穩な暮らしをお祈り申し上げます。

合掌

南無妙法蓮華経

四^し条^{じょう}金^{きん}吾^ご殿^{どの}往^ご返^{へん}事^じ

賢^{けん}人^{じん}は八^{はつ}風^{ふう}と申^{まを}て、八^{はつ}の^{やう}か^せに昌^{さか}されぬ^{けん}を賢^{けん}人^{じん}と申^{まを}なり。

利^り・衰^{すい}・毀^き・誉^よ・称^{しょう}・譏^ぎ・苦^く・楽^{らく}なり。

を^{むね}を^りばは利^りある^{をとろ}によろこばず、衰^{すい}うる^{なげ}に歎^{なげ}かず^{とう}等^{とう}の事^{こと}なり。

此^{この}八^{はつ}風^{ふう}に昌^{さか}されぬ^{けん}人^{じん}をば必^{かなら}天^{てん}は守^{まも}らせ給^{たま}合^あう^{はり}なり。しかる^{ひり}を非^ひ理^りに主^{しゆ}をう^らめ^{なん}と^し候^{そうら}へば、いかに申^{まを}せども天^{てん}ま^{たも}ほり給^{たま}事^{こと}なし。

(解説)

賢^{けん}人^{じん}は八^{はつ}風^{ふう}と申^{まを}して利^り(うるおい)、衰^{すい}(おとろえ)、毀^き(やぶれ)、誉^よ(ほまれ)、称^{しょう}(たたえ)、譏^ぎ(せり)、苦^く(くるしみ)、楽^{らく}(たのしみ)

この八^{はつ}風^{ふう}におかされたい^{しよてん}人^{ひと}を必ず^{もと}言^{こと}者^{もの}天^{てん}が^お言^{こと}護^ごりに

たられるのです。

利あるには喜ばず、^{おとろ}衰えて^{なげ}嘆いてはいけません。
喜びに^{フチャウテン}有頂点にならず、^{なげ}悲しみにおちこまず、平常心
を保つことが大切です。

道理にそむいて^{しゅくん}主君をうらんだりしますと、どんな
に祈っても、言者天が^{しゅくん}お護りすることはありません。

日蓮宗、聖徒タイムズの中の日蓮聖人の教えに載って
る文章です。

この内容を見た時に、私は小さな事に右往左往し、
平常心を失くしては、自分の殻に閉じこもり過ぎて
いる事がタタいと感じました。

いかに平常心を保ち生活していけるように、手を
合わせ、お題目を唱え、少しでも考えぬいて、教えが
自分の心に入るように意識していきたいと思っています。

「和顔愛語」

実力行使の暴力と並んで人を傷け、時には死に追いやってしまうのが言葉の暴力です。

『法句経』の中で釈尊は次のように言っています。

「荒々しい言葉を言うな。言われた人々は汝に言い返すであろう。怒りを含んだ言葉は苦痛である。報復が汝の身に至るであろう」

仏教には和顔愛語という素日青らしい言葉があります。常に温和な表情で優しい言葉で話すという意味です。

ぶっきらぼうな言葉を発すると相手もそれに合わせた言葉を荒げるでしょう。そうすると、お互いに売り言葉に買い言葉となる。争いは止めどなく続き、暴力に発展しかねません。

相手が荒々しい言葉を発した時、それを吞み込んで温和な表情で優しい言葉を発すれば、相手は拍子抜けして、それこそ暖簾に腕押し状態になるでしょう。

このように理性の力によって感情を抑え、グッと我慢することを忍辱といいます。

これは、在家の仏教徒に示された六波羅蜜(布施。

持戒・忍辱・精進・禪定・智慧)という修行の一つです。つまり、釈尊は人間の本性をよく観察して、我慢することを常に心がける以外に暴力を防ぐ手立てはないと考えたのです。

地球上では、暴力が横行しています。口汚い言葉の暴力をみせつけられています。日本には美しい言葉がたくさんあります。知らず知らずのうちに下品な言葉や、荒々しい言葉を使っていれば、いつしかそういう言葉に慣れ切って言語感覚がマヒしてしまいます。

子供なら親が下品な言葉や荒々しい言葉を使っていれば知らないうちに同じような言葉を使ってしまう。

子は親の鏡です。すべて投影されます。

でも親は気が付かないんですよね。

職場の上司で和顔愛語の方がいます。どんな時もニコニコしており、怒っている時でも温和な表情で優しい言葉で伝えてくださるので、こちらも感情的にならず素直に反省できるのです。

言葉の選択ひとつ、表情ひとつで相手の反応は変わってくることを日々学んではいるものの、難しいと感じつつ成長できる自分になっていきたいです。

ほむに —— 施し ——

新しい年が始まり、早いものでもう3月…。少しずつ暖かさを
感じる時も増えてきたように思います。

3月21日は春のお彼岸の中日ですね。この春分の
日を挟んだ前後3日間のお彼岸期間には、ご先祖
供養のためのお墓参り、先祖を思い出して話をしたり
自分自身を省みて日頃の感謝、修行の期間でもあり
ます。6つの修行を実践し、浄土へ到達できる人間
になろうという六波羅密（ろくはらみつ）の教えがあります。

- ① 布施 … 人に施しを与える
- ② 持戒 … 戒律を守る、他人に迷惑をかけない
- ③ 精進 … 常に努力する
- ④ 忍辱 … 苦しくても耐える、不平不満を言わない
- ⑤ 禅定 … 心を安定させる、反省の心をもつ
- ⑥ 智慧 … 正しい判断力で真実を見る目をもつ

布施と言うと、お金のお布施を想像する方が多いと思いま
すが、それだけではありません。自分の身や心、心を誰か
に、何かに施そうという意味でもあります。

先日、寺院にて、バスや電車で誰かに席を譲る話
が出ました。私の体験談で、学生の頃、お年寄りに
「どうぞ!」と席を譲り、断られたことがある…。自分が
良いと思ってとって行動かでも、相手にとってはそうではない
場合もあることを学んで「瞬間」で、とと話しと。お上人
様から「私はそういう時は、声をかけずにただ席を立ち
ます。」と言われ、気がされました。そうすれば「相手が
座りたい」と思ってもらえれば「座る」だろうし、せめて声を
掛けたのに…と不平不満もなくなるなー!!と…。これ
が「智慧」ということなのかなあ…と 思いました。

日々の生活の中で、あまり物事を考えずに言動を起こ
すことも多いですが、一日の終わりにその日を振り返り
この6つの行いを意識することができると「先祖様も子
孫の行いを喜んで下さることと思えます。そして、その行い
をさせて頂いた事に感謝できる自分でありたいですね!

南無妙法蓮華經

「わたくしの人生」

539年 23才で嫁ぎましたお見合結婚です

何も知らず 何も出来ず 何も考えてなかったのではと
思う今なのです

23才〜現在81才 81才に感動のよるこびで
ございます

昔ながらの小さな八百屋さんです

昭和のあの頃だったから小さな八百屋さんもそれ
なりに忙しい思いで務めておりました!!

おいちゃん、おばあちゃん主人 わたくし4人で役割
分担あつての仕立てでした

時代の移り変りの中で考えなければのことも度々
有りでしたがおばあちゃんがよーく仕事を務めてく
れて わたくしはそんなおばあちゃんに甘えて自立が
できませんでした 今でもダメです

うなぎの日(土用)には 60匹〜70匹ぐらゐをおばあちゃんが焼いて
主人が配達です。 いい香りが漂う夕方の店先で
ここへこぼんと持ってきて 香りと一斉に食べようかと

よく話して 笑ったことなども思い出に残ります
朝からうでまくり エプロンはいつもぬれていた!!

家族でさせてもらえる小さな八百屋さんの仕事に
一生懸命でした

よく務めてくれましたおばあちゃんも H14年(84才)でガン
が見つかり入院の末 90才で亡くなりました

そして H17年に主人が軽い脳梗塞にかかり

仕事にも影響がでます どうしようと悩むが、この時は
軽く終わりましたが H19年再発 倒れる!!

この頃より 自分と弱りはじめて来ました入院も長引く
2人の看護は H14年より H27年までかかりました
主人は27年11月に亡くなりましたが看護も怒らずに
させてもらったことが何よりと今よろこびでございます

信仰のおかげさまで、自転車の前、うしろにおむつや
バッグをのせて走るわたくしでした

つらいけれど大変だけれども 心でよし 心でよし 心か

今のお前の務めである。かんばれの声が聞こえる

どんな事も 体験 経験の道を通らねばわからない
ことが多いうちに思ってみます

おはあちゃんとは 43年肉のくらしでした どこへ行くのも
いつも一緒でした 素直でかわいらしい大スキなおはあちゃん
でした そんなおはあちゃんには 何人の恩返も致しま
せずでしたか せめての恩返しは 充分ではありせん
でしたが 看護でした

ベツトに2人が並んで 背中とさすり 心経唱えたり
観音経唱えたりと 涙でお経も唱えられなくなり
おはあちゃんありがとう ありがとうー 酒屋さんの仕事と
おはあちゃんのおかげ さまだうたゆえー せんなるないよ
あんたもようやってくれたがねー といつも話して 泣き笑いです
やさしく寄り添えられたことが 今のよるこびです

いろいろいっばい有りましたか 今は息子家族に せわになつての
暮らしが 何よりの幸せでございます
よるこび いっばい です これも一重に 妙法のおかげさまの
申すあの頃のことかよるこびで ぶり返えられる この思いが又
何より幸せです 今まで歩かせていただけた 尊い道に ありがとう
と御礼と申します。 是て又 此からも少し 残されゆく 人生の
道に どうぞよろしくと申します 何よりも何よりも
お題目のおかげさまに 日々よるこびで ございます
ありがとうございます

合掌

平和の祈り

今、世界がコロナウイルスとの戦いの中で、ロシアとウクライナが戦闘をしています。ますます世界中が、大きな不安の中にいます。

介護の仕事中でも、戦争の話しに痛感しています。

御利用者と一緒にテレビニュースを見ていた時でした。「戦争はいかん！ やってはいかん！」とテレビに向って、声をあげるその両手は握りこぶしとなりふるえていました。

この方は海軍の兵隊だった。船上での戦闘で、弾丸の破片が今でも体内に残ったままだそうです。

満州で看護婦として任務を果していた方は、倒れ死んでいく兵隊さんに「生きて帰れよ!!」と言われ、丸坊主、軍服、男性の姿で「死ぬなら日本の地で!」と死ぬものぐさいで帰って来たそうです。その方も、新聞を読みながら涙を流して...「何を考えている! こんな事は二度としてはいけないのに!!」と言われました。

御利用者の方々の話しを聞いたたびに、胸が苦しくなります。

何か出来ないか!! 今この時にも、多くの人々が悲しみ
苦しみ尊い命を落している。

決して他国の話ではないと思います。いつ、明日は
日本がウクライナと同じになるかもしれないと強く思います。
日本は原爆という恐ろしい経験をしています。

このような経験が繰り返す事のない様に戦争も黙視
してはいけないと思います。

私達は力は弱く、何も出来ないかもしれませんが、

しかし、尊い命が奪われないように、世界の平和を祈る
事が出来ます。

御題目を唱えましょう。どこに行っても御題目は唱える事
が出来ます。一人一人の御題目が何百何千何万人の御題目と
なり妙法となります。世界の平和を祈りましょう。

ウクライナとロシアの戦闘が早く終わりますように...

私達の子供、孫達が安心して暮らすように...

世界・日本の平和があってこそ私達の幸せに繋がります。

南無妙法蓮華經

< 3月行事予定 >

3月13日(日) 10:00 ~ 宗祖日蓮大聖人報恩会
鬼子母尊神) 祈禱会
七面大明神)
大古久尊天祈願会
21日(月) 13:00 ~ 春季彼岸中日法要会

< 3月住職の予定 >

寺院ニテ法務

< 3月の予定 >

3月6日(日)	各々の時間で	清掃. 準備
>	↓	↓
12日(土)		
13日(日)	法要後	片付け. 準備
14日(月)	各々の時間で	清掃. 準備
>	↓	↓
20日(日)		